

アートマネジメント研修の実施状況について

アートマネジメント研修については、文化庁が毎年実施しているアートマネジメント研修のほか、地方公共団体、公立文化施設、大学、財団法人、NPO、企業等においてアートマネジメント人材の育成を目的とした研修が実施されている。プログラム内容、対象者等については、公立文化施設の職員に対して事業の企画制作、施設運営等の研修を行うものや、特に参加者の制限を設けずアートマネジメントの一般的な知識や実践事例に関する研修を行うものなど、各研修の趣旨・目的に応じて様々である。

アートマネジメント人材の育成を目的として実施されている研修の事例については、以下のとおりである。

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
国	文化庁	アートマネジメント研修	公立文化施設の円滑な運営に資するため、職員等の資質向上を図るためのアートマネジメント研修を実施。 (社団法人全国公立文化施設協会に事業を委嘱)	○全国公立文化施設協会アートマネジメント研修会 講演、パネルディスカッション：基調講演「舞台芸術の楽しみと文化施設の役割」、「公立文化施設運営の効率化と文化振興」、「地域に芸術団体レジデント、フランチャイズは何をもたらすか」、「青少年のための舞台芸術普及事業、その目的と方法－鑑賞教室のネットワークを－」、「江戸時代まであった日本人の文化芸術観－近代化によって失ったものと現代－」、「公立劇場におけるプロデューサーの役割－芸術性と効率性を考える－」、「指定管理者制度の導入状況を俯瞰する」、「自主文化事業を経営と芸術の両面から考える」、「公立文化施設を活用する地域の文化活動」、「動いて知るダンスの魅力と知識」、「舞台芸術の有用性について」、「青少年向け舞台芸術鑑賞事業を考える」、「シェイクスピアの笑い」、「特別プログラム 舞台芸術の企画と公演－人形と舞台芸術－」、「文化経営の時代－公立文化施設の経営と文化芸術振興－」	3日間	158名参加	公立文化施設 (文化会館、指定管理者(財団、企業、NPO等)、地方公共団体)の職員
				○ブロック別アートマネジメント研修会(全国7ブロック) 講演、事例発表等：(関東甲信越の例)講演「指定管理者制度導入後1年を経過しての現況について」、提出議題の協議「指定管理者導入後の有効な経費削減策と収益性の向上策」、事例発表「地域における公立文化施設の連携と役割分担及び住民との関わりについて」	各2～4日間	552名参加	
市区町村	東京都港区	「アート・マネジメント講座」	文化芸術により多くの人々が触れるようにするため、文化芸術の「創り手」と「受け手」とをつなぐための人材の育成を目的として開催。音楽や演劇等の上演系講座と絵画や工芸等の展示系の系統別の入門講座・ワークショップと、広くアート・マネジメントの領域に触れるための公開講座を開催。 (慶應義塾大学アート・センターと協働開催)	○アート・マネジメント講座(公開講座)：文化芸術をより多くの人に触れてもらうための必要な知識(文化芸術の運営や企画など)をテーマとする。 『オーボエとの「時間(とき)」』 アーティストの思いと聴衆の願いとを結ぶアート・マネジメント。	3日間 (通年)	400名(定員)	区内在住、在勤、在学の者
				○アートマネジメント講座(入門講座) アートマネジメントの専門性を深めるため、音楽や演劇等の上演系と絵画や工芸等の展示系の系統別の講座を開催 ・上演系「広がるアートマネジメントの地平」、「コンサートの制作～よい音楽をより多くの人に～」、「イベント運営におけるリスク・マネジメント」 ・展示系「美術館のゆくえ」、「芸術活動運営のための著作権知識」、「アートがつくる新しいアソシエートのかたち」	3日間 (通年)	各80名(定員)	区内在住、在勤、在学で3回通して受講できる者
				○アートマネジメント実践講座(実習(ワークショップ)) 公開講座・入門講座修了者の中から希望者を選抜し、実践的な内容を含むワークショップを上演系・展示系の系統別実施 ワークショップの参加者は、将来設置予定の文化芸術サポーターに登録、区内で展開する事業の運営に協力	各5回	各15名(定員)	入門講座修了者の中から希望者を選抜

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
市区町村	茨城県取手市	TAP塾	取手市、市民、東京藝術大学の三者が共同で実施している取手アートプロジェクト(TAP)のアートマネージャー育成プログラム「TAP塾」として実施。	○TAPの企画運営：TAP実施本部での運営作業分担、運営会議への出席、市民と共にアートによるまちづくりを实践 ○講演：アートマネジメントに関する一般的な知識をTAPでの実践に結び付けながら学習 ○キューレーション：ワークショップ-アーティスト選定やプログラミング、アーティストと共に作品制作 ○情報発信・交流事業「TAPフォーラム」の企画運営	通年	65名参加	制限なし
市区町村	静岡県浜松市	浜松市アクトシティ音楽院主催者養成セミナー	音楽イベントを企画・運営できる人材を育成することを目的として「主催者養成セミナー」を開催。	○専門家によるコンサート企画開催における基礎知識や手続きなどの講座に加え、実際に受講生自身でコンサートを企画立案し、当日の運営までを実体験 「コンサートの基礎知識」、「アートマネジメントとは」、「企画を考える」、「印刷のしくみ」、「メセナとは」、「マーケティングについて」、「著作権について」、「税金について」、「コンサート開催に向けて」、「コンサート開催」、「反省とまとめ」	11日間	15名（定員）	高校生以上簡単なコンサートを企画してみたい者
市区町村	宮崎県宮崎市	市民文化創造人材育成事業「アートマネジメント、はじめの一步」講座	市民が多様なニーズやジャンルにとらわれない文化芸術イベントにおいて、市民とアーティストをつなぐコーディネーターの育成から、各種文化芸術イベントをプロデュースしていく人材の支援を目指した講座を開講。	講座前半は、文化芸術をより多くの人に触れてもらうための必要な知識を、実際の事例等から運営や企画について学習。後半は、受講生による事業実施を念頭に、より実践的な内容について講師のアドバイスを受けながら企画・立案に取り組む。同時に、実際の現場のサポートとして参加・体験。 講演・実地研修：「文化・芸術をとりまく環境について」、「プロデューサーの仕事」、「仕掛けと集客」、「実際の事業計画(1)」、「音楽ウィーク『ザハール・ブロン・コンサート』」、「実際の事業計画(2)」、「市民プラザコンサート」、「実際の事業計画(3)」	8日間 (通年)	20名（定員）	市内在住、在勤、又は市内で活動する団体に所属している大学生以上の者。文化芸術に関する催しの企画、運営に興味のある者。年間を通して受講できる者
公立文化施設	横浜市神奈川区民文化センター(かなっくホール)	アートマネジメント講座～「表方」のお仕事～	地域の芸術文化振興のため、アートマネジメント能力を持った人材を育成する。	○講演、ワークショップ： 主に地域住民を対象に、コンサートや演劇のステージで実際にお客様と対応する「表方」スタッフにスポットを当て、「どうしたらお客様にご満足いただける公演になるの?」、「手伝いに来られた方へ何を伝えたらよいの?」、「表方の業務を円滑に進めるにはどこに気をつけなければならないの?」などについて、実際に公演に使用する資料を使いながら、ワークショップ形式でコンサートの表方の業務を体験して学ぶ。	1日間	24名参加	貸し館利用者、アートマネジメントに興味がある者
公立文化施設	横浜市栄区民文化センター「リリース」	アートマネジメント講座「リリース予備校」	市立公立ホール史上最年少館長が、経験とネットワークを駆使し、使える文化ホール職員・アートマネージャーを養成する。	○「勝つ提案から克つ運営へ-優秀提案を優れた運営につなげるために-」 講演、ディスカッション、ワークショップ等：基調講演「公立文化施設を取り巻く環境変化と展望」、「優秀提案書を読む」、「施設運営を読み込む」、「文化事業を読み込む」、「提案から実現への橋渡し」、「提案と実践-施設の現状を踏まえて」、「リリース提案書を書く」、「提案プレゼンテーション①、②」	9日間	30名（定員）	制限なし

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
公立文化施設	世田谷文化生活情報センター（世田谷パブリックシアター）	パブリックシアターのためのアーツマネジメント研修	公共劇場の運営に携わっていきたく考えている方々のためのアーツマネジメント研修。前年度公募により決定した6名を対象に実施する。10ヶ月にわたる少数精鋭の研修を通じ、公共劇場の運営方針やプログラムの企画・ディレクションを立てていけるような人材を育成することを目的とする。これまで世田谷パブリックシアターが創造する劇場として培ってきた「実践的な現場のノウハウ」と、舞台芸術に対する哲学を得ていくための「座学」の両方がバランスよく学べる研修環境を提供。	(1)6名を対象とした研修 ○講座 A：概論、B：劇場運営、C：公共圏における劇場、D：創造の現場 ○実務研修：劇場管理（フロントスタッフ、貸館業務、施設管理）、教育普及（区内小中学校でのワークショップ、劇場ツアー、夏休み子どもワークショップ）、制作の現場（プロダクションについて2ヶ月程度の現場研修） ○ゼミナール：ケーススタディ、舞台芸術界におけるさまざまな時評を検討 ○相談役サポート：研修生毎に、一週間に一度、制作部スタッフが企画発表修了論文の作成の際のアドバイス ○企画発表：研修生がパブリックシアターに向けた企画を発表 ○修了論文発表	10ヶ月	6名参加 (研修部分是有給)	舞台芸術の制作・劇場勤務等の経験者、または企業勤務経験者で舞台芸術への転職希望者で社会経験1年以上の者。
				(2)一般向け研修（6名も受講） ○「日本の公共劇場とは何か？」 講演：「公共劇場の芸術監督：公共劇場のミッション」、「公共劇場と地方自治体との関係」、「公共劇場を規定する法律」、「文化政策からみた公共劇場」、「公共劇場の歴史」	5日間	40名（定員）	制限なし
				○「公共劇場の運営」 講演：「公共劇場の特色」、「日本の公共劇場」、「世界の公共劇場」、「地域にとっての公共劇場」、「これからの公共劇場」	5日間	30名（定員）	制限なし
				○「公共劇場の運営－世田谷パブリックシアターを事例に－」 講演：「劇場運営・ソフト(学芸制作)」、「劇場運営ハード(施設・雇用費)、地方自治体との関係、予算の立て方」、「ファンドレイジング」(メセナ民間相手、公共相手)、「事業収入、事業支出(主催・提携・貸館)」、「今後の公共劇場について」	5日間	30名（定員）	制限なし
				○「舞台芸術と著作権・契約／スキルアップ！5日間」 講演：「著作権(1)：基礎編」、「著作権(2)：実践編」、「契約(1)：基礎編」、「契約(2)：実践編」、「現場必携、5つのトピック」	5日間	60名（定員）	舞台芸術の仕事経験者
				○「公共劇場における観客創造」 講演（公共劇場の観客層をどのように捉え、増やしていくかを、受講生参加型で行う実践講座）	5日間	20名（定員）	制限なし
				○「公益法人改革で何が変わるのか」 講演（第1回：現状の公益法人制度を俯瞰し、その問題点を明らかにしたうえで、改革の趣旨やねらいを解説。第2回：税制を含めた新しい制度をNPO等とも対比しながら検討し、芸術文化セクターに与えるインパクトについて考える）	2日間	30名（定員）	制限なし
				○「公共圏としての劇場－劇場空間の可能性」 講演：「公共の演劇」への導線のいくつか－「民衆演劇」の歴史、共同体、あるいは、公共圏、差異と同一性。日本と主にフランスの場合を引き較べながら、「現われの空間」としての公共圏、「演劇王国」ドイツの公共劇場制度－その歴史と現在、「劇場のコスモロジーとその「外部」、「演劇の内と外にある「社会」」	5日間	25名（定員）	制限なし
				○「地域社会と芸術－ケーススタディーズに基づいて」 講演：「アートによる地域活性化」、「創造都市横浜、そしてA A F地域創造」、「創造実験都市～新しい都市作づくりの構想～」	3日間	25名（定員）	制限なし

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
				○「舞台芸術／史論」 講演：Aコース 演出家「演出家の役割－舞台芸術と社会をつなぐ」、Bコース 劇言語「〈劇言語〉のオントロジー－いま、「戯曲」はどこまで自明か？」、Cコース 舞踊「コンテンポラリーダンスの状況」、「戦後日本の身体と舞踏－社会との関わりをめぐって」	6日間	20名（定員）	制限なし
				○「制作の仕事」 講演：「世田谷パブリックシアターのダンスプログラム」、「舞台芸術の制作－コンテンポラリーダンスを中心に－」、「舞台芸術の制作－演劇を中心に」、「国際共同制作作品のプロデュース」	4日間	30名（定員）	制限なし
				○「学芸の仕事」 講演：「世田谷パブリックシアターの学芸が目指してきたこと」、「ドラマトウルクの作業」、「劇場と学校をつなぐ普及活動を巡って」、「地域に根ざしたワークショップに向けて」	4日間	30名（定員）	制限なし
公立文化施設	北九州芸術劇場	北九州芸術劇場「劇場塾」 演劇人の為のアーティストマネジメント講座 -How to「演劇制作」-	地域リーダーの育成のため、演劇ワークショップのリーダーや劇場外活動のリーダー、劇場運営ボランティアのリーダー等として、「舞台」・「客席」と地域を結びつけるリーダーを育成する。	○講座：「企画を考える」、「予算：資金と人はどうする？」、「作品づくりの流れ」、「チケットはどうやって売る？」、「上演：作品と観客の出会い」、「戯曲を読む」、「上演に向けて」、「まとめ」	8日間	10名（定員）	高校生以上で、演劇制作経験のある者、これから制作を目指す者
公立文化施設	熊本県立劇場	舞台芸術制作セミナー～実践編～	県民の舞台芸術に対する関心と創造意欲が高まっている中で、地域の公共ホールにおいて行われる創作活動をサポートできる人材を育成するために、舞台制作の知識と技術を学び、体験する実践的なセミナーを実施。	○講演、ワークショップ、公演の実施等 「コミュニケーションゲーム」、「演劇制作の流れ」、「舞踊という世界」、「体験！ダンスワークショップ」、「演奏家と観客との新しい関係」、「企画書の書き方」、「公演の制作を体験しよう！」、「制作会議①」、「広告とデザイン」、「制作会議②」、「第1印象はココ！受付と接客」、「即実践！「おーい幾太郎」公演」、「音響技術の基礎実習」、「制作会議③」、「舞台デザイン」、「照明技術の基礎実習」、「演劇ホールを使って公演の実施「アットライブスペシャル！」、「公演を終えても終わりじゃない（事後処理、反省会）」、「夢の実現へ向かって」、「芸術分野でのNPOの現状」、「まとめと反省会（意見交換）」	11日間	30名（定員）	高校生以上

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
財団	財団法人地域創造	ステージラボ／アートミュージアムラボ	公立文化施設等の職員を対象に、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト運営に欠くことのできない要素を体得するための研修を実施。	(高松セッションでの実施例) ○ホール入門コース、自主事業Ⅰ(音楽)コース、自主事業Ⅱ(演劇)コース、アートミュージアムラボ (鳥取セッションでの実施例) ○ホール入門コース、自主事業コース、文化政策企画・文化施設運営コース ・ワークショップなどの体験プログラムの実施 ・グループ討議などの双方向コミュニケーションの重視	4日間 (年2回)	高松セッション 64名参加 鳥取セッション 62名参加 (各コース定員約20名)	公立文化施設等の職員
		ステージラボ・マスターコース	研修事業(ステージラボ)の修了生が、事業を企画立案する際に役立つような実践的な調査研究の機会を提供するとともに、より緊密なネットワーク形成を支援。	○講義、ディスカッション及び先進事例の現地調査を通じて、テーマに関するレポートを執筆するとともに、参加者が地域の実情に即した企画を立案 ・前期研修会：レクチャー、方向性検討、事例研究等 ・調査企画会議：先進地域視察、専門家ヒアリング、問題点の研究、企画立案等 ・後期研修会：最終調査レポート、企画案発表 ・報告書作成	約半年間	7名参加	ステージラボの修了生
		アートアプローチセミナー	市町村長等向けセミナーを開催するとともに、文化振興担当部局幹部職員を対象に、地域における芸術文化活動についての理解を深める研修を実施。	○市町村長等向け：講演、レクチャーコンサート (市町村アカデミー研修(財団法人全国市町村振興協会)のプログラムの一つとして参加) ○文化振興担当幹部向け：ゼミ、ワークショップ	市町村長等向け：1日間	約100名参加	市町村長等
		ブロックラボ	都道府県・政令指定都市の文化振興課長等を対象に、全国を6ブロックに分けて研修を開催。	○(関東ブロックラボの例) ・1日目：「地域創造の紹介」、「講演」、「文化施設実態調査結果の報告」 ・2日目：「地域の芸術文化事業の事例紹介」	各2日間	21名参加	都道府県・政令指定都市の文化振興課長等
財団	財団法人北海道文化財団	アートプロデューサー養成講座<実践編>	芸術・文化に対する理解を深めるとともに、地域の人々が文化活動への参加を促す企画やその実施方法を学んでもらい、活動のリーダー(アートプロデューサー)となる人材を育成(レベルアップ)することを目的とする。 (共催：北海道教育大学岩見沢校(主管：芸術課程芸術文化コースアート・マネージャー専攻))	○音楽クラス・美術クラス共通 「音楽ホールの仕事ー地域の文化拠点として」、「子ども・学校・地域とアートの出会い」 ○音楽クラス 「クラシックコンサートを企画するⅠ」(クラシックコンサートの企画と参加者とアーティストで立案し実際に公演を行う。)、 「クラシックコンサートを企画するⅡ」、「クラシックコンサートの広報・宣伝とは」、「クラシックコンサートを実施する」 ○美術クラス 「人生の追体験! ? ~子どもと向き合う大人のためのワークショップⅠ」(幼児期から現在まで体験した視点の高さや視線の方向を言葉や画像に対して、それをスライドショー「人生の追体験」として編集し、最後に発表と鑑賞を行う。)、 「人生の追体験! ? 子どもと向き合う大人のためのワークショップⅡ」	4日間	31名参加 (各コース15名程度)	全道の文化行政担当者、文化活動の制作担当者、道内芸術系大学及び専門学校生
		北海道文化財団アートゼミ2007 ○演出ゼミ	「アートゼミ」は、道内において演出家や劇作家として活動されている者や劇団等で制作に携わっている者のレベルアップを目的とした少人数制の養成講座。	○「演出ゼミ[第5回]」 宮沢章夫氏を講師として戯曲の解説・分析、バランス感覚とコミュニケーション、演出におけるオリジナリティ等を学ぶ。	5日間	9名参加	演出ゼミ：現在演出家として活動している者、演出経験がある者

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
		北海道文化財団アートゼミ2007 ○舞台制作ゼミ		○「舞台制作ゼミ」 佐藤道元氏を講師として、パフォーミングアーツカンパニー「指輪ホテル」の活動事例を通して、劇団やダンスカンパニーの企画制作、マネジメントの手法を学ぶ。	1日間	16名参加	演劇やダンスの制作・プロデュースに従事している者、又は関心のある者
財団	財団法人新潟県文化振興財団	アートプロデュース講座	県内の公立ホール職員、 県市町村文化振興担当職員 などを対象に、主に文化事業実施時に必要な知識、地域の文化振興のためにホールが何ができるかを学び、 また、県内ホールのネットワーク事業の可能性を検討。	○第1回 ・報告「県内ホールの現状」(職員数、予算等の調査結果報告) ・講演「文化によるまちづくり①」(事例によりどのような企画をし、財源をどう開拓し、確保するかを学ぶ。) ・意見交換「新年度ネットワーク事業等について」(社団法人全国公立文化施設協会加盟団体のみ参加) ・講座「各種助成金について」など(公的、民間助成団体の紹介など)、「文化によるまちづくり②」-「大地の芸術祭」を事例として- (県内他地域との事業展開の可能性などをさぐる) ○第2回 ・講演「芸術文化の振興と公共ホールの役割」(八尾市の文化振興ビジョンとプランにおけるホールの位置づけ) ・報告「他団体との共催事業の具体例」(共催事業実態調査結果報告) ・意見交換「テレビ、新聞社事業担当による共催についてのプレゼンなど」(新年度事業の共催の可能性をさぐる)、「新年度ネットワーク事業等について」(社団法人全国公立文化施設協会加盟団体のみ参加) ・講座「文化に関わる法律」(芸術活動の分野に詳しい法律事務所の弁護士による著作権の最近の話題、「主催者とチケット購入者との契約とは」など) ・体験講座「日本の伝統芸能～歌舞伎の楽しさ」	各2日間	62名参加 うち、22名(行政関係者)、40名(社団法人全国公立文化施設協会加盟職員)	県市町村文化振興担当者等
財団	財団法人鳥取県文化振興財団	鳥取県文化振興財団アートマネジメント職員研修会(主催)	県内財団等職員研修の一環として、高度アートマネジメント力を習得するため、職員の意識啓発と国内外の地域劇場の紹介等、今後の公立文化会館にとって必要なスキルを養成。	○講義:「アートマネジメントの実際」、「公立文化会館のこれからと財団の改革」、「指定管理者制度とどのように向き合うか」、「公立文化施設の管理運営と効率化について」、「アーツマーケティングとは」、「財団の経営改革と人事評価制度について」、「業績評価制度について」	3日間	50名参加	県内文化財団職員
		鳥取県公立文化施設協議会アートマネジメント研修(共催)	県内の公立文化施設を円滑に管理運営するため、職員の意識改革と技術の向上を目指すとともに、職員同士の相互交流に寄与する。	○講義:「アートマネジメントの実際」、「公立文化会館のこれからと財団の改革」、「指定管理者制度とどのように向き合うか」、「公立文化施設の管理運営と効率化について」、「アーツマーケティングとは」、「財団の経営改革と人事評価制度について」、「業績評価制度について」	1日間	60名参加	県内公立文化施設職員
		鳥取県文化団体連合会アートマネジメント研修会(共催)	県内の文化活動者にアートマネジメントの意識啓発と取組みの促進を図る。	○講義: 公的資金と文化芸術団体の関係～補助金に潜む落とし穴とは～	1日間	70名参加	県文化団体連合会に所属する会員

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
財団	財団法人ひろしま文化振興財団	アートマネジメント研修事業	地域の文化力を育み、地域社会の活性化に資するため、アートマネジメント研修を実施。文化芸術振興の推進役となる人材の育成を図るとともに、官民の相互交流に寄与する。	○アートマネジメント講座ー地域のアートパワーをどう育むかー 第1日 ・講義「社会関係資本と、市民・芸術の幸せな関係」（取手アートプロジェクト～市民・大学・行政のパートナーシップ～） ・グループワーク①、②、③（（グループ毎に参加者の問題意識に基づいたテーマを設定し、広島における現状と課題を洗い出したうえで、解決の方向性を探るアクションプランを作成） ・プレゼンテーション①、② ・ケーススタディ①～他地域の事例から学ぼう～山口情報芸術センター、小出郷文化会館 第2日 ・講義「地域文化デザイン～アートパワーをどう育むか」 ・グループワーク④（前日に決めた打開策の方向性やヴィジョンを具体的なアクションプランに落とし込み、コーディネーターとアドバイザーが各グループを回ってアドバイスする） ・プレゼンテーション③	2日間	30名程度 (定員)	県内市町の文化行政及び文化施設職員、民間(NPO・文化活動団体・企業等)で文化芸術事業に携わる人材
財団	財団法人福岡市文化芸術振興財団	アート・マネジメント・セミナー	文化芸術と市民を結ぶことを目的としたセミナー等を開催し、アーティストとサポートする組織づくりや特色のある活動を行っている文化活動者の紹介等を行い、地元文化活動者への情報提供、活動者のサポートにつなげる。	○「福岡・新小劇場時代」 講演、パネルディスカッション：「これからの福岡の演劇界を考える」 ○「絶対売れる！？～地方劇団成功の法則」 演劇関係者、地元演劇人、一般参加者を含めたディスカッションを行うことで、劇団が現在かかえている課題を浮き彫りにし、将来をどう見つめていくかを考える。	1日間	65名参加	制限なし
大学	昭和音楽大学 (昭和音楽大学オペラ研究所)	オペラ劇場運営講座 プロフェッショナル実践編	我が国のオペラ制作に関わる人材養成の一環として、ヨーロッパのオペラ劇場運営の第一線で活躍する講師のレクチャーと受講者との一問一答のセッションを実施。	○レクチャー、質疑応答：実践講座1「オペラ劇場の運営と財政管理」、実践講座2「オペラ劇場の統括と芸術管理」、実践講座3「オペラ劇場の広報とプログラミング」	2日間 (全3回)	各30名(定員)	国内のオペラ制作現場で活躍する人材
NPO	特定非営利活動法人沖縄県芸術文化振興協会	アートマネジメントセミナー	沖縄市内の文化芸術活動を活発化させ、活力ある地域コミュニティの形成を図るため、人的資源や市内の文化資源を有機的に結び付け活用し、音楽・芸能文化による産業の創出を図るため、アートマネジメントの研修プログラムを実施。	○講演：「これからの公共劇場運営」、「ちゅらさんの企画・制作について」、「演劇における公共ホール・劇場の役割」、「文化芸術の振興と基盤整備」、「音楽における公共ホール・劇場の役割」、「芸術文化によるまちづくりの先進事例」、「指定管理者制度の導入状況と今後の動向」	7日間	29名参加	制限なし
NPO	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	アウトリーチコーディネーター育成研修会	音楽活動を通じて地域社会に貢献するNPOとして、主にクラシック音楽の専門家と地域住民とをコーディネートするノウハウ研修会でアウトリーチコーディネーターの育成を実施。	○講演：①「アウトリーチは魔法の水？～ある地域で続く訪問プログラムの実際」 ②「アウトリーチプログラムの作り方」 ③「演劇ワークショップの現場」 ④「地域・学校・NPOの連携をよりよいものとするためのポイント」	4日間 (4回)	各50名(定員) (②は30名)	制限なし

種別	実施機関名	事業名	事業趣旨	プログラム内容	研修期間	参加者数・定員	対象者
企業	トヨタ自動車株式会社	トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007	アートの現場が直面する切実な課題やアートと社会の関係等を議論	○トヨタ・アートマネジメントフォーラム2007「なぜ、いまアートなの？ーアートの力、アートの社会的価値を考える」 講演、パネルディスカッション：オープニングセッション「アートマネジメントをひも解けば」、分科会A「〈高齢化社会とアート環境〉ーシルバーパワーが社会を変える」、分科会B「〈防災〉に対してアートができること」、分科会C「いま、教育現場に必要なアートとは？ーアーティスト・イン・スクールのこれまでとこれから」、分科会D「アートNPO的！？経営戦略ー大阪・フェスティバルゲートケーススタディに」、分科会E「リージョナルシアターが地域を超える日ー演劇が身近な存在になれば、アートも近くに見えてくる」、分科会F「美術館と社会ー美術館の位置する社会を描く」、総合セッション「なぜ、いまアートなの？ーアートの力、アートの社会的価値を考える」、クロージング「レビューコメントー今後の展開に向けて」	1日間	360名参加	制限なし
その他	日本アートマネジメント学会関西支部会 (兵庫県立芸術文化センター、神戸大学)	第5回関西学生アートマネジメント会議	日本アートマネジメント学会関西支部会の主催で行われてきた関西学生アートマネジメント会議は、関西でアートマネジメントを学ぶ学生が中心となり、それぞれの研究発表を行うだけでなく、実際に企画・運営に携わることで実践の場とすることを目的とする。	○研究発表（ゼミ形式）・活動発表 第1日目：大学生による研究発表（神戸大学） 第2日目：大学生、学生を中心とするグループによる研究及び活動発表 「アーティストと地域を結ぶ文化施設」、「まちづくりと文化施設」、「大学と文化施設」（兵庫県立芸術文化センター）	2日間	1日目20名参加 2日目90名参加	1日目：アートマネジメントを学ぶ学生 2日目：制限なし

- (注) 1. 事業名、プログラム内容、研修期間、参加者数・定員等については、平成18年度又は19年度の直近のデータによる。
2. 事業の主目的が情報交換・交流等人材育成以外の事項であるものや、大学、地方公共団体等が開催する社会人向けの公開講座等を除く。